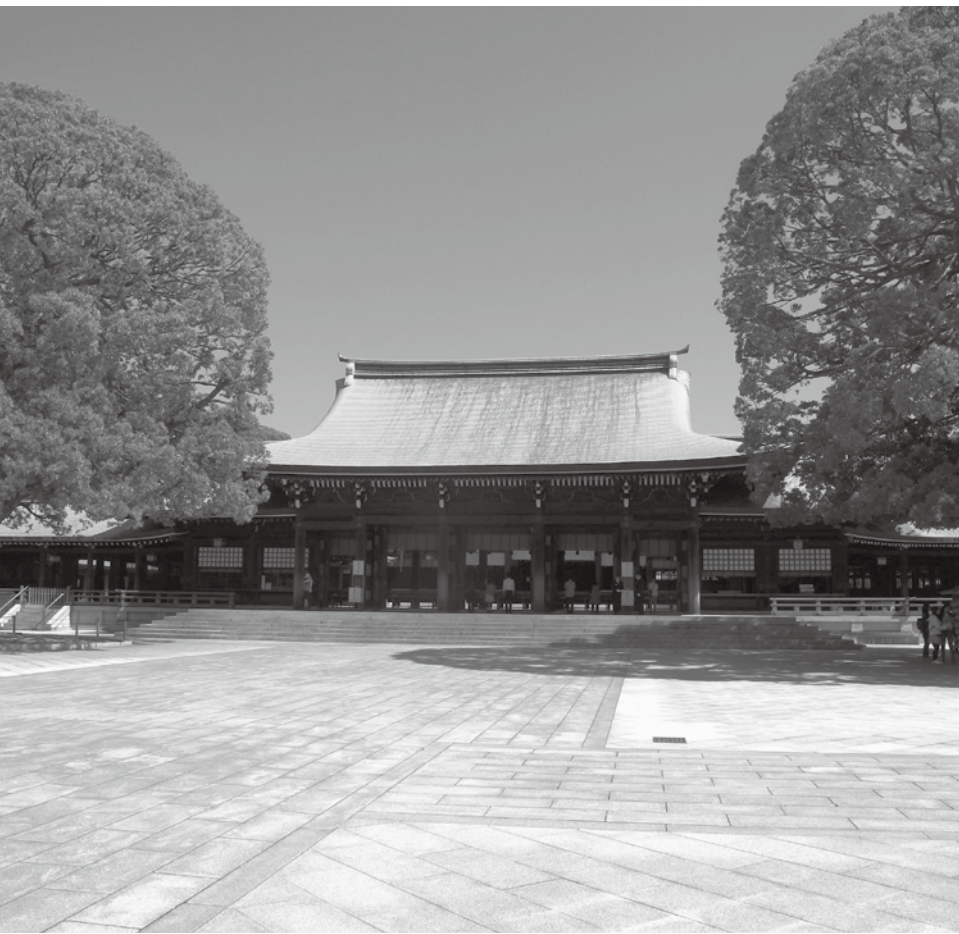


“わたしのまち”

明治神宮の本殿は代々木の杜に囲まれて
厳かな雰囲気を感じ出す



渋谷区

緑あふれる都心のオアシス

明治神宮、代々木公園を巡る

JR山手線原宿駅にほど近い明治神宮、代々木公園は、23区内でも広大な緑のオアシスとして人気のある場所です。地元の人だけではなく休みの日には国内外の多くの観光客が訪れます。隣り合った場所にあり緑も多いこの2つのスポットは、「厳かな雰囲気」「開放感」という、それぞれ違ったシチュエーションの中で自然の豊かさを感じることが出来ます。そこで今回は明治神宮、代々木公園のみどころを取り上げます。

都心の中のオアシス

渋谷区の北部に位置する明治神宮と代々木公園は、渋谷や新宿といった大都市に挟まれた位置にありながら、多くの自然に恵まれています。それぞれの敷地を合わせると124万㎡（明治神宮約70万㎡、代々木公園約54万㎡）の面積があります。

豊かな緑を育む2つのスポットを散策

明治神宮

明治神宮は、明治天皇と昭憲皇太后を祀るために創建された神社です。明治天皇と昭憲皇太后にとって特にゆかりの深い代々木の地に大正9年11

また、原宿駅の東も含めた神宮前地区全体も含めると、近隣では神宮外苑、新宿御苑の大きな緑に囲まれているほか、明治神宮の参道だった表参道のケヤキ並木による緑や明治通りや外苑西通り、青山通りなどの街路樹も含めると都心ながら緑が豊かに広がる地域です。

月1日（1920年）に鎮座したのが始まりです。

その後、第二次世界大戦中に空襲に見舞われ、創建当初の主要建物は焼失しましたが、昭和33年11月には国内外から寄せられた浄財によって、神社建



明治神宮の大鳥居は木造の明神鳥居としては日本一の大きさだ



6月に見頃を迎える菖蒲田。江戸系の花菖蒲が咲き揃う

清正井は都心では珍しい湧水の横井戸だ



築の粋を集めた復興造営がされたことにより現在の社殿が完成しました。

明治神宮のみどころ

◆代々木の杜

参道の入口より広がる緑は、神宮御鎮座にあたりおよそ10万本の全国からの献木が植栽された人工林です。大正4年から造営工事が始まりまし

たが、「永遠の森」を目指した壮大な計画のもとで、全国からも献木として植樹する木を奉納したいと届いたといえます。その木々が延べ11万人にも及ぶ青年団の勤労奉仕によって植樹されました。

その後、敷地内の樹木は東京ドーム約15個分にもなる自然林のように大きく豊かな森に成長し、自然に恵まれた代々木の杜として、人々の憩いの場所となっています。

また、平成25年の「鎮座百年記念明治神宮境内総合調査」では、代々木の杜に日本新発見の昆虫（ジングウウスマルヒメバチと命名）が報告されたほか、数多くの絶滅危惧種や都会には珍しい生物がいることもわかりました。

◆御苑と花菖蒲

明治神宮の境内地になる前は江戸時代、加藤家や井伊家の下屋敷の庭園でしたが、明治時代になり代々木御苑と称され、昭憲皇太后がたびたび訪れるようになりました。

その中でも、明治天皇が昭憲皇太后のために植えさせられたとされる菖蒲田の花菖蒲は、6月に見頃を迎えます。江戸系の花菖蒲が中心で、現在も大切

に守り育てられています。また、渋谷区民を明治神宮御苑の菖蒲田へ抽選で無料招待等をする「花菖蒲を観る交流会」を6月10日～20日に行う予定もあります。

◆都心には珍しい、湧水の井戸「清正井」

御苑の中にある清正井は都会では貴重な湧水の井戸で、最近ではパワースポットとしても人気があります。

当時、この場所に加藤家の下屋敷があり、安土桃山・江戸初期の名高い武将、加藤清正の子・忠広が住んでいました。そのためか、井伊家の下屋敷になつてからも、この地では数々の清正伝説が伝えられました。

清正井は横井戸（山の崖など斜面に水平方向に掘る井戸）で、当時はどこが水源でどのように水が流れてくるのかわかりませんでした。そこで、熊本城や名古屋城を造り、治水・干拓の技術にも優れていて、土木の神様と称されていた加藤清正が特殊な技術で井戸を掘り、水が湧出するのではないかと考えられていました。

その後、戦前に行った水源調査で、現在の本殿倉庫の位置にあたる御本殿

なぜ、明治神宮には椎や樅、楠が多い？

植 樹当時は、在来種等も含め365種ありましたが、気候や生育状況に合わない種類もあり、現在は234種類になっています。杉や樅は少なく椎や樅、楠が多くなっています。

大正時代、東京では公害が進んでおり都内の大木や老木が次々と枯れていったことから、当時の学者たちが100年先のことを見越して、立派に育ちやすい椎・樅などの照葉樹を植えることに決定したといえます。当時の内閣総理大臣であった大隈重信首相は伊勢神宮や日光東照宮の杉並木のような雄大で荘厳なものを望んでいました。しかし、代々木の地は都会であり谷間

のように水気が多くないことや関東ローム層のため適さないと、当時の本多静六ら関係者が反対し、説明、納得させたことで、現在の森敵で素晴らしい杜になりました。



100年の時をかけて緑豊かになった代々木の杜

西側権殿敷地付近一帯の浅い地下水による自然の湧水であることがわかりました。そして現在も、四季を通じて15度前後の安定した水温を保った水が毎分60リットル湧き出しています。



中央広場は、緑の多さと開放感のある空間が特徴的だ



代々木公園

代々木公園は昭和42年10月20日に開園した都立公園です。23区内にある都立公園の中では5番目に広く、園内の3割強は樹木に覆われています。

もともとこの場所には、井伊直弼の下屋敷を始めとする大名の下屋敷がありました。明治42年に陸軍代々木練兵場になりました。

明治43年には、国内で初めて日本人が乗った飛行機が飛びました。園内には、これを記念し、日本航空発始の碑

選手村だった面影を残す
オランダ宿舍跡



日本航空発始の碑

が立てられています。

戦後、米軍の駐留軍家族の居留地・ワシントンハイツとなり、東京オリンピックの選手村となった後、現在の代々木公園が完成しました。

代々木公園の設計計画では、公募の際に明治神宮の森と連動するような樹林（樹種）を構成することや、公園内は自動車が行き止まないようにすることといった条件が盛り込まれたことで、代々木公園は今も都心の「森林公園」として、緑に恵まれた自然な姿を感じられる空間になっています。

代々木公園のみどころ

公園は緑の多いA地区と、道路を挟んで反対側にある陸上競技場、野外ステージ、サッカー・ホッケー場などのB地区に分かれています。

A地区の公園の中心にある草地の中央広場では広い空を感じることが出来ます。また、どの季節に訪れてもさまざまな草木が色々な姿を見せてくれます。

日本で初めてつくられたバードサンクチュアリは、野鳥保護のために保護柵で囲われていますが、中には野鳥の好む実のなる木が植えられ、十分に野鳥観察ができるようになっています。

中央広場のそばには高さ15メートル〜30メートルに及ぶ大小3基の噴水や水回廊をもつ水景施設もあり、緑だけでなく水辺のものんびりと過ごすことができます。

その他にも、昭和39年の東京オリンピックの選手村だった時にオランダ選手が使用した宿舍、ケヤキ並木や代々木公園の中心部にあたる中央広場や新宿の都心ビルを眺望できる展望デッキなどさまざまな見どころがあります。

渋谷や表参道、原宿竹下通りなど近

昭和45年オープン当時の代々木公園。緑もまだ若々しさが感じられる



渋谷区コミュニティバス「ハチ公バス」。明治神宮や代々木公園のそばを通る路線もある。近隣のまちの散策にも便利だ

隣スポットが注目を集めますが、自然と親しみつつのんびりと過ごすのも楽しみ方の一つと言えるでしょう。